「旧約の信仰者たちの手本」　預言者ダニエル④　（11：32～38）

■はじめに

1. 手紙の背景と11章の内容

(1) この手紙が書かれた時期は、紀元64年から66年頃。ユダヤ人の間でローマ帝国に対する反乱の機運が高まる中、愛国主義的な同胞たちから教会に対する迫害が激しさを増していた。一部のユダヤ人信者の中には、迫害を鎮静化するため、いったんエルサレムの神殿祭儀に戻ろうという動きが出始めた。この背教の動きに対して、著者は警告のためにこの手紙を書いた。

(2) 迫害の中で必要とされるのは、信仰による忍耐。この手紙の11章は、信仰による忍耐をテーマにしつつ、旧約聖書に記録された信仰の先輩たちの手本にならおうという内容である。

2. 前回までの流れと本日の内容

(1) 新約聖書で、主の兄弟ヤコブは、次のように語る。「苦難と忍耐については、兄弟たち、主の御名によって語った預言者たちを模範にしなさい」（ヤコブ5：10）

(2) 旧約聖書に記録された信仰の先輩たちの手本にならおうというシリーズ、最後の手本として取り上げるのは、捕囚時代の預言者ダニエル。ダニエルが受けた苦難と彼の忍耐の生涯を通して、信仰の手本を学ぶ。

① 第1回は、預言者エレミヤの活動をふりかえり、捕囚時代の預言者ダニエルの時代背景を見た。

② 第2回は、ダニエルがバビロンの宮廷で高位に着くまで

- ダニエルは、バビロニヤ王国の全州を治める地位にあげられた。同時に、「バビロンのすべての知者たちをつかさどる長官」となった。
- ダニエルの3人の同僚たちは、ダニエルの願いにより、バビロン州の事務をつかさどることになった。

③ 第3回は、バビロン州に金の像が立てられたとき、ダニエルの3人の同僚たちの信仰の証し―ヘブル人の手紙11：34「火の勢いを消し」が指す出来事、そしてネブカデネザル王が、神の前にへりくだるまで、を見た。

④ 今回は、バビロニヤの後継の王が高ぶって国が滅んだこと、そして次のメディヤ・ペルシヤの治世下でダニエルはどのような立場に置かれたかを見る。このときダニエルは、謀略により獅子の穴に投げ込まれたが、神が遣わした天使によって守られたという記事がある。ヘブル人の手紙11：33「獅子の口をふさぎ」とは、このことを指す。ダニエルの学びの最終回。

■ダニエル書の構成について

1章～2章・・・ダニエルたちが捕囚となり、バビロンの宮廷で高位に着くまで

3章～4章・・・ネブカデネザル王が、神の前にへりくだるまで

5章・・・バビロニヤの後継の王は高ぶり、神殿の器で酒を飲み、国が滅んだ。バビロニヤの最後の王であるナボニドス王の長男、摂政の地位にあったベルシャツァルが登場する。彼は、4章で布告された祖父ネブカデネザル王の証言を無視して、高ぶって滅びた。その滅亡の経緯が5章に記されている。よって5章は、内容的には4章と一対になっている。

6章・・・ダニエルは、次のメディヤ・ペルシヤの治世下でも王に仕え、栄えたバビロニヤを倒したメディヤ・ペルシヤの初代の王、ダリヨスのときの出来事が6章。謀略によりダニエルは獅子の穴に投げ込まれたが、神によって守られたという記事がある。ヘブル人の手紙11：33「獅子の口をふさぎ」とは、このことを指す。

7章～12章・・・4つの預言を記している。4番目の預言のあと、ダニエルは死んだ。

7章　「四頭の獣」（ベルシャツァル王の治世元年、BC553）
2章の「4つの国」に対応

8章　「雄羊と雄やぎ」（ベルシャツァル王の治世第3年、BC551）
4つの国のうち、第二と第三の国についてのより詳しい預言である。国名も明らかにされ、第二の国はメディヤ・ペルシヤ、第三の国はギリシヤ

9章　「7の70」（ダリヨス王の元年、BC539）
イスラエルの民とエルサレムが異邦人の支配下に置かれる時（異邦人の時）についての預言。メシア初臨の時期と大患難期に関する重要な預言

10～12章「大きないくさ」（クロス王の第3年、BC536）
大戦争と終末に関する預言。
まず、ペルシヤとギリシヤの間での大戦争の預言。次に、ギリシヤの四分国のひとつシリヤによる治世下での「卑劣な者」の預言。卑劣な者は、反キリストの予表である。卑劣な者に関する預言は、11：36から第四の国の時代に移り、大患難期における反キリストに関する預言となる。新約聖書の最後の巻・黙示録を読み解く重要な預言。

■ネブカデネザル王による証言（ダニエル書4章）　5章の前提となる内容

1. ダニ4：1～3・・・王による告示文書の前書き「ネブカデネザル王が、全土に住むすべての諸民、諸国、諸国語の者たちに書き送る。あなたがたに平安が豊かにあるように。いと高き神が私に行われたしるしと奇蹟とを知らせることは、私の喜びとするところである。そのしるしのなんと偉大なことよ。その奇蹟のなんと力強いことよ。その国は永遠にわたる国、その主権は代々（よよ）限りなく続く」
2. ダニ4：4～18・・・王が見た夢
   (1) 13節「ひとりの見張りの者、聖なる者が天から降りて来て」、17節「見張りの者たちの布告によるもの、この決定は聖なる者たちの命令によるものだ」
      ① 「見張りの者」や「聖なる者」とは、天使たちを指す
      ② 24節には「これは、いと高き方の宣言であって」とあるように、天の神の宣言を受けて、天使たちが伝達する。
   (2) 17節「いと高き方が人間の国を支配し、これをみこころにかなう者に与え、また人間の中の最もへりくだった者をその上に立てることを、生ける者が知るためである」・・直訳すると、「生ける者が（次のことを）知るためである。主人は、いと高き方である、人間の国の中で。そのお方は、それを（国を）誰であれ、その方の望む者に与え、人間の中の最も低い者をも引き上げてそれの（国の）上に立たせる。」
3. ダニ4：19～27・・・ダニエルによる夢の解き明かし
4. ダニ4：28～36・・・12か月後に王の身に起こったこと。きっかけは、高ぶり。
   (1) 人間の中から追い出された・・・34節を見ると、王が理性を失ったことを指す。その結果、王の顧問や貴人たちは王を追放した（36節）
   (2) 牛のように草を食べた。そのからだは天の露にぬれた。
   (3) ついに、彼の髪の毛は鷲の羽のようになり、爪は鳥の爪のようになった。
   (4) その期間（七つの時）が終わり、理性が戻った。
5. ダニ4：37・・・ネブカデネザル王が、神の前にへりくだった。「今、私、ネブカデネザルは、天の王を賛美し、あがめ、ほめたたえる。そのみわざは、ことごとく真実であり、その道は正義である。また、高ぶって歩む者をへりくだった者とされる」（37節）。

□バビロニヤ王国の滅亡（ダニエル書5章）　BC539　　【　　】：新聖書辞典による

1. ダニ5：1～4・・・ベルシャツァル王が大宴会を催す。
   (1) 【ベルシャツァルは、最後の王ナボニドスの長男で、摂政の地位にあった。】
   (2) 千人の貴人たちを招いての大宴会。父（父祖の意味）ネブカデネザルがエルサレムの宮から取って来た金、銀の器を持ってくるように命じた。
   (3) その器で参加者が皆、ぶどう酒を飲み、偶像の神々を賛美した。

(4) この行為は、ネブカデネザルの証言（4章）に対するあからさまな否定である。5：22では、「これらの事をすべて知っていながら、心を低くしませんでした」と言われている。

2. ダニ5：5～9・・・突然、人間の手の指が現れ、宮殿の塗り壁に物を書いた。王はその手の先を見て、おびえ震えた。王はバビロンの知者たちに、その文字を読み、その解き明かしをするように命じたが、誰もできなかった。
3. ダニ5：10～12・・・この出来事を聞いた王母が宴会の広間に入って来た。そして、王に、ダニエルを呼んで解き明かしをしてもらうようにすすめた。【王母はネブカデネザル王の娘ニトクリス。よってベルシャツァルは、ネブカデネザル王の孫】
4. ダニ5：13～16・・・ダニエルに対する、王の尊大な態度。「おまえは、私の父である王がユダから連れて来たユダからの捕虜のひとり、あのダニエルか。」王は7節で宣言した報奨を同様に、ダニエルにも示した。「今、もしおまえが、解き明かしをできたなら、おまえに紫の衣を着せ、首に金の鎖をかけさせ、国の第三の権力を持たせよう」。第三の権力とは、ベルシャツァルが第二なので、自分に次ぐ地位を与えるということ。
5. ダニ5：17～24・・・ダニエルは、報奨を辞退したうえで、解き明かしの前に、人間の手の先が現れた経緯を語る。「あなたは、これらの事（4章）をすべて知っていながら、心を低くしませんでした。それどころか、天の主に向かって高ぶり、主の宮の器をあなたの前に持って来させて、あなたも貴人たちもあなたの妻もそばめたちも、それを使ってぶどう酒を飲みました。あなたは、見ることも、聞くことも、知ることもできない銀、金、青銅、鉄、木、石の神々を賛美しましたが、あなたの息と、あなたのすべての道をその手に握っておられる神をほめたたえませんでした。それで、神の前から手の先が送られて、この文字が書かれたのです。」
6. ダニ5：25～28・・・文字の読みと解き明かし
7. ダニ5：29～30・・・その夜、カルデヤ人のベルシャツァル王は殺され、国はメディヤ・ペルシヤの支配下になる。初代の王は、メディヤ人のダリヨス。このとき、ダリヨスはすでに「およそ62歳」。首都はそのまま、バビロンに置く→「国を受け継いだ」。
   (1) バビロニヤ王国が続くのはネブカデネザル王の孫の代まで、というのは、エレミヤが預言していた（エレ27：7）
   (2) メディヤ人の王たちが立つことも、エレミヤが預言していた（エレ51：11）。

□「獅子の口をふさぎ」（ヘブル11：33）（ダニエル書6章）

1. ダニ6：1～3・・・ダリヨスの統治方針
   (1) 120の地域に分割して各地に「太守」を置く。中央政府には3人の「大臣」を置く。
   (2) 太守は、大臣に報告を出す＝3人の大臣が120人の太守の上司となり、太守を管理監督する立場となる。ダニエルは3人の大臣のひとりとなる。

(3) 王は、3人の中からダニエルを、「全国を治める」立場に任命しようとした。

2. ダニ6：4～9・・・大臣や太守たちの謀略

3. ダニ6：10～18・・・大臣や太守たちの訴え

(1) 王は日暮れまでダニエルを助けようと努めたが、メディヤ・ペルシヤの法律を曲げることはできなかった。

(2) ついにダニエルは逮捕され、命令のとおり執行された（獅子の穴に投げ込まれた）

4. ダニ6：19～23・・・一晩たって、夜明け。この間、獅子はダニエルに何の害も加えなかった。王は非常に喜び、ダニエルを穴から出せと命じた。王はダニエルに何の傷もないことを確認した。

5. ダニ6：24～27・・・謀略者たちの処刑と王の告示

(1) 王は、新たに命令を発し、謀略をもってダニエルを陥れようとした者たちを捕え、妻子とともに獅子の穴に投げ込んだ。獅子はダニエルのときとは異なり、すぐに彼らをかみ砕いた。

(2) 王は、次のように全国に書き送った。「あなたがたに平安が豊かにあるように。私は命令する。私が支配する国においてはどこででも、ダニエルの神の前に震え、おののけ。この方こそ生ける神。永遠に堅く立つ方。その国は滅びることなく、その主権はいつまでも続く。この方は人を救って解放し、天においても、地においても、しるしと奇蹟を行い、獅子の力からダニエルを救い出された。」

6. ダニ6：28・・・ダニエルは、ダリヨスの治世とペルシヤ人クロスの治世に栄えた。

(1) メディヤ・ペルシヤの初代の王は、メディヤ人ダリヨス（62歳）。BC539～538

(2) 次の王は、ペルシヤ人クロス。BC538～530

7. クロスについて

(1) イザヤ（預言者としての活動は、BC740～686）の預言（イザヤ44：28～45：7）

① 「わたしはクロスに向かっては、『わたしの牧者、わたしの望む事をみな成し遂げる』と言う。エルサレムに向かっては、『再建される。神殿は、その基が据えられる』と言う。」（44：28）

② 「わたしが選んだイスラエルのために、わたしはあなたをあなたの名で呼ぶ。あなたはわたしを知らないが、わたしはあなたに肩書を与える。」）45：4）

③ 「わたしは彼の右手を握り、彼の前に諸国を下らせ、王たちの腰の帯を解き、彼の前にとびらを開いて、その門を閉じないようにする。」（45：1）

(2) 【クロスは、BC559年にペルシヤの王となったあと、メディヤ（BC550）、リュディア（BC546）、小アジヤ西岸のイオニア諸邦を勢力下に収めた。次に彼は東に転じ、イラン高原一帯を制圧した後、バビロニヤ平原に入り、ついに<u>戦わずして首都バビロンを征服</u>した（BC539）。】

① ペルシヤがメディヤ・リュディア・イオニアの3つの地域を勢力下において台頭することは、ダニエルが預言していた。「その獣は、横ざまに寝ていて、そ

の口のきばの間には三本の肋骨があった。するとそれに、『起き上がって、多くの肉を食らえ』との声がかかった」（ダニ7：5）

② 横ざまに寝ている姿は、両肩の位置関係が上下になっている。兄弟国であるメディヤとペルシヤの力関係が対等ではないことを示す。

(3) クロスはメディヤ人ダリヨスとともにバビロニヤを一夜にして転覆させて、国を受け継いだ。その夜の出来事がダニ5章の記事。

① 初代の王はダリヨスがなったが、62歳と高齢のダリヨスは1年で交替し、クロスが2代目の王となった。

② メディヤとペルシヤの力関係については、ダニエルが次のように預言していた。「それには、二本の角があって、この二本の角は長かったが、一つはほかの角よりも長かった。その長いほうは、あとに出て来たのであった」（ダニ8：3）。メディヤとペルシヤは兄弟国、メディヤが兄貴格の国であったが、後から出て来たペルシヤがより強国になった。

(4) クロスは、王に就任したその年、BC538年のうちに、エルサレムの宮の再建を命じた（Ⅱ歴36：22～23）。イザヤの預言44：28のとおりであった。

(5) ユダヤ人たちは、クロスの勅令により、捕囚の身から解かれて、エルサレムとユダの地に戻った（エズラ1：1～2：1）。おそらく、到着は勅令の出た翌年、BC537頃であろう。

(6) 神殿の再建のため礎を据えたのは、到着の翌年である（エズラ3：8）→BC536。これは、ダニエルが捕囚となったBC605から、実に70年目である。エレミヤにより告げられた主のことばは、そのとおりに実現した（エレ25：11、29：10、ダニ9：2、Ⅱ歴36：22）。ダニエルは、この年に、帰還を果たさずに死んだ。

8. ダニエルの死と、その生涯を振り返って

(1) ダニエルは「クロス王の元年までそこに（バビロンに）いた」（ダニ1：21）。

(2) ダニエルは、クロス王の第3年、BC536年、ティグリス川岸にいた（ダニ10：1、4）。そこで最後の預言を与えられた（ダニ10～12章）。

(3) このあと、彼はその生涯を閉じた。捕囚になったのが15歳とすれば、84歳頃。「あなたは終わりまで歩み、休みに入れ。あなたは時の終わりに、あなたの割り当ての地に立つ。」（ダニ12：13）メシアの王国に、復活したダニエルが立つ。

(4) ダニエルの生涯は、エレミヤを通して語られた主の命令と約束のとおり。「バビロンの王のくびきに首を差し出して彼に仕える民を、わたしはその土地にいこわせる。」（エレ27：11）。神と地上の主人に誠実に仕えた生涯（エペソ6：5～8）

(5) ダニエルの日課は、祈りと感謝・・・「いつものように、日に三度、ひざまずき、彼の神の前に祈り、感謝していた」（ダニ6：10）

(6) 祈りは、罪の告白と願い・・・ダニ9：3～14罪の告白、9：15～19恵みの嘆願